群教セ	E03 - 03
	平15.213集

協力することの大切さを学び合う学級づくり

――「４－２大改造計画」への取組とその振り返りを通して――

特別研修員　　濱野　仁

《研究の概要》

本研究は、小学校４年生を対象に「４－２大改造計画」（学級活動）の活動を設定した。その取組の中で、個人、小集団、学級全体の取組のよさをポジショニング・マップとしてまとめ、集団で取り組むことのよさについて振り返った。これらの活動を通して協力することの大切さを学び合う学級が育つことを、実践を通して明らかにしようとしたものである。

【キーワード：学級経営　小学校　学級活動　協力】

Ⅰ　主題設定の理由

中学年という発達段階においては、気の合う友達同士では協力して活動するが、それ以外の友達とはあまり交わりを持たない、あるいはそこまで目を向けられないといった傾向がある。しかし、所属する集団というものを意識して行動していけば、協力することから生まれるより大きな力・喜びを学び合える。このことは、中学年から高学年を迎える児童にとって、集団の中で自分の果たす役割と責任を果たし、社会性を向上させる芽生えにつながると考える。

本学級の児童（小学４年生、男子22名、女子17名）は、一人一人は素直であり、人間関係は比較的良好である。しかし、「生活していく上で気を遣うべきこと」を調査したところ、「勉強する、あいさつをする、友達にやさしくする、協力する」などの意見が出された。自分自身のことや他の人とのかかわりが多く、集団とのかかわりに関する意見はかなり少ない傾向にある。児童は、協力して取り組むことの大切さというものを、言葉の上では分かっていると思われるが、協力することにより生まれる本当のよさについては、体験を通してまだ十分な理解をしていないと考えられる。 特に中学年では、体験を踏まえて、協力の具体的な視点をもち、協力していこうとする意欲や協力の価値について本当のよさを理解できるようにしていくことが大切であり､学級の成果としてそのよさを実感できるようにすることが重要であると考える。そのためには、次のような要素を含んだ活動を意図的に設定し、お互いの成果を振り返る場を設ける必要があると考える。

①　一体感を生み出す共通の目標を設定する	②　①②の実現に向け共に計画を立てる
③　責任感・自己有用感を意識して役割分担する	④　②～④をもとに活動をする
⑤　①～⑤について評価し、改善する	⑥　⑤をもとに再度活動を行う

そこで本研究では、小集団を編制し活動していく「４－２大改造計画」（学級活動）への取組を①～⑥の要素から設定するとともに、そのよさをポジショニング・マップにまとめ、それをもとに集団で取り組むことのよさについて話し合う活動を行った。具体的には、２学期の運動会の後に作成した「運動会への気持ち・行動」の成果をもとに、「４－２大改造計画」の活動を設定した。学級における係活動の改善・充実に向けてチームを編制して活動を行い、その後、運動会時と「４－２大改造計画」終了時の学級全体のポジショニング・マップを比較し、集団で取り組むことのよさを考えることを通して協力することの大切さを学ばせたいと考え、本主題を設定した。

II　研究のねらい

「４－２大改造計画」（学級活動３時間、短学活、休み時間）において、①導入として、運動会に向けて取り組んだ児童の事後の感想から、自分や相手の気持ちと行動について比較する活動を行うこと、②実践において、４－２大改造計画のチーム編制のもと、目標決め・計画・活動・改善の一連のサイクルで取り組むこと、③これら①②のよさの比較から成果を振り返る活動を通して､協力することの大切さを学び合う学級になることを実践を通して明らかにする。

III　研究の見通し

１　「４－２大改造計画」の導入として、練習方法などについて意見を出し合って取り組んだ運動会後の児童の感想をもとに、学級活動においてその児童のよさを出し合い、ポジショニング・マップを作成し､自分の取組と比較することにより､協力する視点に気づくであろう。

２　「４－２大改造計画」の実践として、学級活動の時間や短学活・休み時間に、お互いに意見を出し合いながら新たな係の活動を行い､「大改造の秘訣」を学級で出し合うことにより、協力して活動していこうとする意欲を持つであろう。

３　学級活動「４－２大改造計画を振り返ろう」において､「大改造の秘訣」の感想からよさを取り上げ、学級全体のポジショニング・マップとしてまとめ、導入時の学級全体のポジショニング・マップと比較し、集団で取り組むことのよさについて振り返ることにより、協力する価値に気づくであろう。

上記の１～３の見通しを通して｢協力することの大切さを学び合う学級｣が育つであろう。

IV　研究の内容

1　基本的な考え方

(1)　「協力し合うことの大切さを学び合う学級づくり」について

「協力し合うことの大切さを学び合う学級」の子供の姿として、次の①～③の要素が含まれると考える。

①　協力の視点に気づいている。
集団で活動する場合、自分のことだけでなく、相手のことも考えて行動することが必要であるという視点に気づくことができる。

②　協力していこうとする意欲を持っている。
共通の目標に向かってともに活動していく過程で、協力し合う際のより具体的なポイントに気づき、協力して活動していこうとする意欲を持つことができる。

③　協力する価値に気づいている。
集団で取り組むことのよさを実感し、協力することの価値に気づくことができる。

(2)　「４－２大改造計画」について

「４－２大改造計画」とは、学級活動（３時間）・短学活・休み時間などにおいて、みんなの役に立ち、自分も楽しめる新たな係（チームとよび、以下全てチームとする）を編制し、目標決め・計画・活動・改善の一連のサイクルで、係活動に取り組むというものである。チームは全部で11チームで構成される（表１参照）。また、他のチームに「活動のよさ（ナイス）」や「こうするとさらによい活動になると思う（アドバイス）」という二つのカード（アドバナ

イスカード）を作成して渡す。さらに、発表会後に「こうすれば４－２が大改造していく！」という「大改造の秘訣」を出し合う。こうした連続した活動により、協力してよりよい活動、学級にしていこうという意欲を持つことができると考える。

(3)　学級全体のポジショニング・マップについて

ポジショニング・マップとは、児童の気持ちや行動を、横軸に自分・相手、縦軸に行動・気持ちと位置づけた用紙にまとめたものである。具体的には、運動会後と「４－２大改造計画」後に学級全体のものをまとめ、比較し、そこから協力する価値に気づくことができると考える（資料９、10参照）。

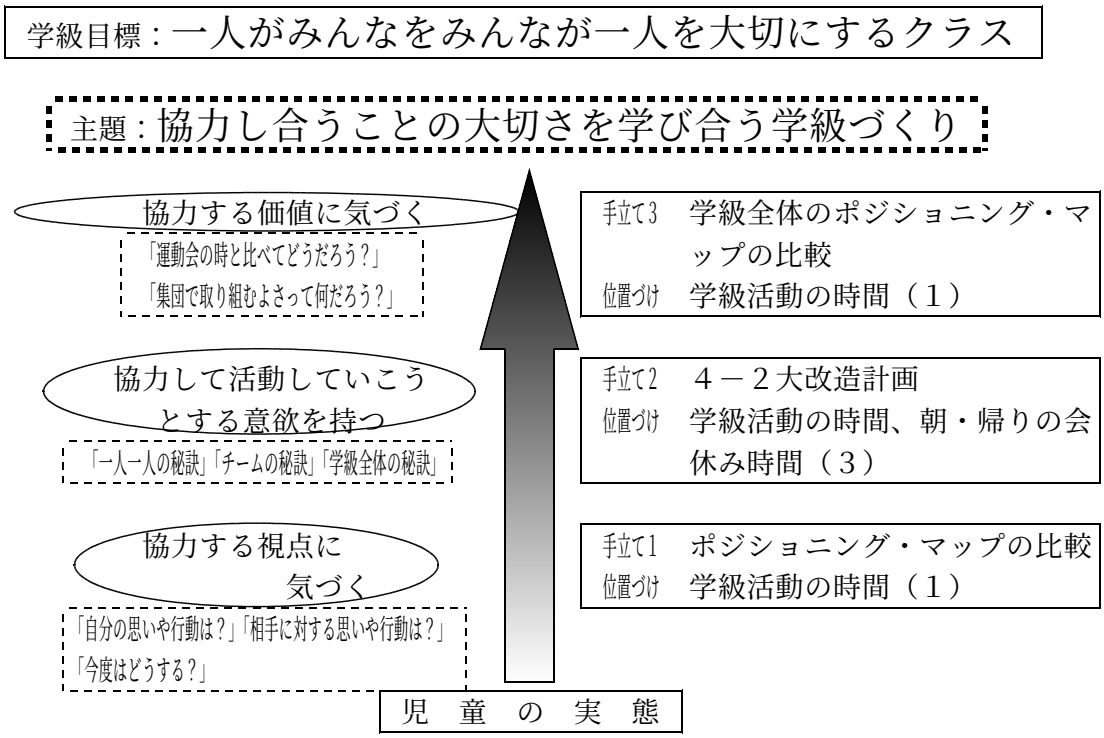


図1　研究の全体構想図

2　実践の概要および結果と考察

検証にあたっては､学級全体と抽出児Ａ子の活動の様子や活動後の感想などを中心に行った。抽出児Ａ子は、２学期の日直日誌に「私は全体の前での発表は苦手だったが、少しだけれど発表することが好きになってきた」と記述している。また、協力し合うには「相手を思う気持ちが必要」、さらに運動会当日のダンスのかけ声では「最後の方で小さな声になってしまったから、最後まで大きな声を出せばよかったなと思います」と記述しており、「協力して活動していきたい」という気持ちは見られる。

(1)　協力する視点に気づくことができたか。（見通し１）

ア　実践の概要

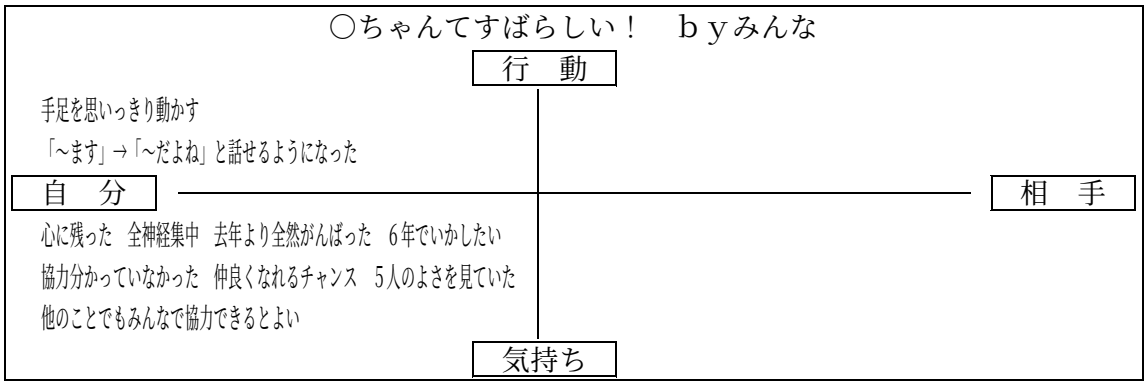
運動会に向けて、学級としてどのように取り組んだらよいかを話し合い、実行していった。事後に、気持ちや行動についてよく表現できていた二人の児童の感想を取り上げ、その記述からよさを出し合い、自分の取組と比較し振り返る活動を行った（ここでは一人のみ掲載）。

イ　結果と考察

資料１は、運動会後に児童が書いた感想の中から代表２名のものを用い、学級でその児童のよさを出し合い、横軸に「自分」と「相手」、縦軸 に「気持ち」と「行動」を配置し、ポジ

ショニングマップにして表したものである。その他の児童は、自分たちのコメントの中からよさを抜き出した上で、資料１のようなポジショニングマップを作成し、二人と自分のそれを比較し、感想を書いた。

資料1　ある児童の感想から作成したポジショニング･マップ



資料２は、全員の感想を教師が抜粋しまとめた主なものである。学級全体でみていくと、二人の図を見ての感想では「相手に関係する気持ちや行動の表現の多さ」に目を向けた意見が32個である。また「二人の図と自分の図を比較した事実」からは先述の裏返しとして、自分の「相手に関係した気持ちや行動」の記述が少ないということに着目した意見が20個挙げられている。今後への思いは「見習いたい」「相手のことを考えたい」という意見がともに３個ずつである。学級の全ての意見をまとめると、以下の①～④のような視点になる。

①自分がしっかりとした気持ちを持つこと（12個）
②①を受けて、自分が行動すること（18個）
③相手のことを思うこと（52個）
④③を受けて、相手のために行動する（５個）

③の視点についての意見が際だって多いことから、今までは「相手のことを思っていなかった」といういうことが読みとれる。協力して物事に取り組む場合、自分のことだけでなく、「相手のことを思う必要性」に気づけたといえる。

また抽出児Ａ子は、「二人とも自分だけでなく相手のことをよく考えていてるのに、私は相手のことをあまり考えていなかったのかなと思うとちょっと悲しい」、「二人は自分の行動も多いのでそれだけ努力しているし、結果となって表れている」、「先のことまで見ていて、協力していこうという姿勢から思いやりを感じる」と記述している。Ａ子は、今後の自分の取り組みについては述べていないが、二人のよさを認めた上で「相手のことをあまり考えていなかった」と表現しているので、協力して活動するには自分だけではなく、相手のことも考えて行動することが必要であると気づいたと考える。

以上のことから、集団で物事に取り組むには、自分の気持ちや行動だけでなく、相手のことも考えて行動するという視点を持つことが必要であることに気づくことができたといえる。

資料2　マップ作成後の感想
(数字は個数)

【二人の図を見ての感想】
・相手に関係した気持ち・行動が多い(32)
・よく練習している、努力している(11)
【二人の図と自分の図を比較した事実】
・自分は相手に関係した気持ち、行動少ない(20)
・自分の気持ちは書けた(5)
【二人の図と比較しての思い】
・残念、悲しい(2)
・思いやりが足りない(2)
【今後への思い】
・見習いたい(3)
・相手のことを考えたい(3)
・努力をたくさんしたい(2)

注：複数回答

(2)　協力して活動していこうとする意欲を持つことができたか。（見通し２）

ア　実践の概要

「４－２大改造計画」では、「みんなのためになり、活動して楽しいチーム」を児童が新たに構成し、活動に取り組んだ。活動１週間後にチームと全体のよさや改善点を出し合い、また３週間後に発表会を行った後、「大改造の秘訣」を出し合い、価値の構造化を行った。

イ　結果と考察

資料３　４－２大改造計画の指導計画

段階	時数	活動の場面	活動内容	指導・支援の留意点
①	1	学級活動	○チーム編制。(表1) ○目標、内容、計画づくり。○感想を書く。(資料4)	○最低2人以上のチームになるよう指示。 ○発表時間が各チームごとにぶつからないように調整する。
②		短学活 休み時間	○チームの活動、発表 ○アドバナイスカードを渡す。	○よさや改善点を伝えることでよりよい活動になることを助言する。 ○教師の気づいたよさや改善点も伝える。
③	0.5	学級活動	○チームのよさや改善点を話し合い、発表する。 ○学級全体のよさや改善点を話し合い、発表する。	○よさは、少しでもがんばったことでもよいと助言する。 ○よさや改善点を模造紙にまとめ掲示(資料5)
④		短学活	○アドバナイスカードを渡し合う。	○互いの発表がより充実するよう、全児童が全チームにアドバナイスカードを渡すよう伝えておく。
⑤	0.5	学級活動	○チームごとに発表する。	○分かりやすい発表になるよう助言する。 ○発表を聞く態度を考えるよう助言する。
⑥	1	学級活動	○発表後、大改造の秘訣を考え発表する。	○秘訣は当たり前と思うことでもよいから感じたものを発表するよう助言する。 ○秘訣を個人、チーム、学級全体のものとして模造紙にまとめ掲示(資料7)

資料３は「４－２大改造計画」における指導計画である。おおまかな流れは、①チーム編制、目標・計画づくり、②実行、③よさや改善点の話し合い、④発表会前に全チームにアドバナイスカードを渡し合う、⑤発表会、⑥「大改造の秘訣」の話し合いである。

表1　４－２大改造計画各チーム一覧表

チーム名（人数）	目　　標	活　動　内　容
ミュージックステーション（3）	みんなを楽しくさせる音楽などを流す。	朝音楽を流す。カラオケ大会を開く。ダンスをする。歌いたい曲などアンケートを取る。
イラスト・シスターズ（3）	みんなが見て楽しいような絵を書く。	みんなの顔をマンガバージョンで描く。みんなに見せてだれだか当ててもらう。
スーパートップⅢ（2）	いろいろなトップ3を探してみんなをに喜ばす	「掃除をよくしている人はだれか」など、アンケートを採って発表する。
仲良く遊ぼう（3）	仲良しを目指す。	イス取りゲーム、ハンカチ落とし、ドッチボール、おにごっこなど。
動物園（2）	一生懸命がんばって育てる。	魚などを持ってきてみんなを楽しませる。
手作りクッキング（5）	みんなが喜ぶようなおいしいおやつを作る。	友達の家に集まってクッキーやドーナツを作る。
キュートデコレーション（3）	クラスを元気で明るくする。	季節に合わせて考えて作ってはる。
１１人に聞いたミリオネア（6）	難しい問題をがんばって作る。	１１人に質問し、答えてもらって、質問されてない人に答えてもらう。
桐生旅行パンフレット（3）	クラス全員に桐生のことを知ってほしい。	できるだけ桐生のパンフレットを作る。
アンビリーバボー（4）	みんなに「怖い」と言わせる。	怖い話を言う。
宝探し（5）	みんながわくわくするようにする。	えんぴつなどをかくし、見つけた人に見つけた物をあげる。

資料４は、チーム編制後に児童が書いた感想から、主なものをまとめたものである。前向きな意見が学級全体で38個挙げられていた。その中でも最も多いものは、「一生懸命やりたい、がんばりたい」という意見（12個）など、今後への意気込みである。このように前向きな意見な意見が多く挙げられた要因として、児童は今まで当番的な活動を行ってきており、「みん

なのためになり、活動して楽しいチームづくり」は初めてだったことが挙げられる。特に「活動してみんなを喜ばせてあげたい」という意見が６個あり、「自分のために」という視点だけでなく、「全体のために」という視点が見られ始めた。運動会時とは異なり、共通の目標を持って活動を進めていこうとするチーム編制を行ったおかげで出てきた言葉であると考えられる。これから始まる新たな取組に対する児童の期待が伺える。

しかしその反面、未知の体験に近いためか、「目標、計画づくりが難しい」といった取組への不安（全12個）も記述されている。これを解消していくには、児童がお互いに意見を交換し合ったり、お互いの取組を励まし合うという要素が必要である。

資料４　チーム編成後の児童の主な感想
（数字は個数）

【チームのメンバーへの期待】
・このメンバーならできそう、いいメンバー（5）
【今後への意気込み】
・一生懸命やりたい、がんばりたい　（12）
・今後が楽しみ（7）
【クラスのみんなに対する思い入れ】
・みんなを喜ばせてあげたい（6）
【取組への不安】
・目標、計画づくりが難しい（5）
・うまくできるか不安（2）
・この内容できちんとできるのか（2）
・何をすればよいか分からない（2）

注：複数回答

資料５　大改造計画実施１週間後のチームの主な感想

学級全体の喜び

みんなのふれあいが多くなってよかった　だんだんクラスが休み時間に仲良くなった・・・　笑いを入れながらやっているのでにぎやかになる　16個

チームとしての喜び

「今日の音楽何だか楽しみ」と言ってくれた　最初から盛り上がってよかった　みんなが楽しかったと思う（少し笑ってた）　おまけで喜んでくれた　役割を分けた　やってみたらみんなが楽しそうだった　みんなが分からない穴場に行けた　みんながおかしを「おいしい」と言ってくれた　28個

学級全体に協力を要すること

やっているときは静かに！　苦情を言わないでほしい　休み時間がつぶれるので1日1回くらいの計画にしてほしい　19個

チーム内の注意点

もっと早いペースで取り組む　計画があまかったから今度はちゃんとする　リーダーに任せすぎ　28個

資料５は、取組開始１週間後に、チーム内でのよさと改善点、またクラス全体を通してのそれを各チームごとに話し合った後に発表し、学級全体でまとめたものである。全チームから44個のよさと47個の改善点が出された。出されたよさは、一生懸命に取り組んだ達成感として、「チームとしての喜び」、「学級全体の喜び」としてまとめた。チームの喜びの中には、学級全体に関係したものも６個あり、小集団としてのチームの喜びだけではなく、学級全体を見渡す視点が徐々に生まれてきたことが考えられる。また、改善点として、チームについては、チーム編制時の不安がそのまま反映され、「計画の不備」についての意見が目立った。全体に対しては「静かに発表を聞いてほしい」という意見が多く見られた。これは、児童がチーム編制時には思いつかなかったものである。活動は自分たちだけで行うものではなく、相手の協力があって成り立つものであることを示唆している。

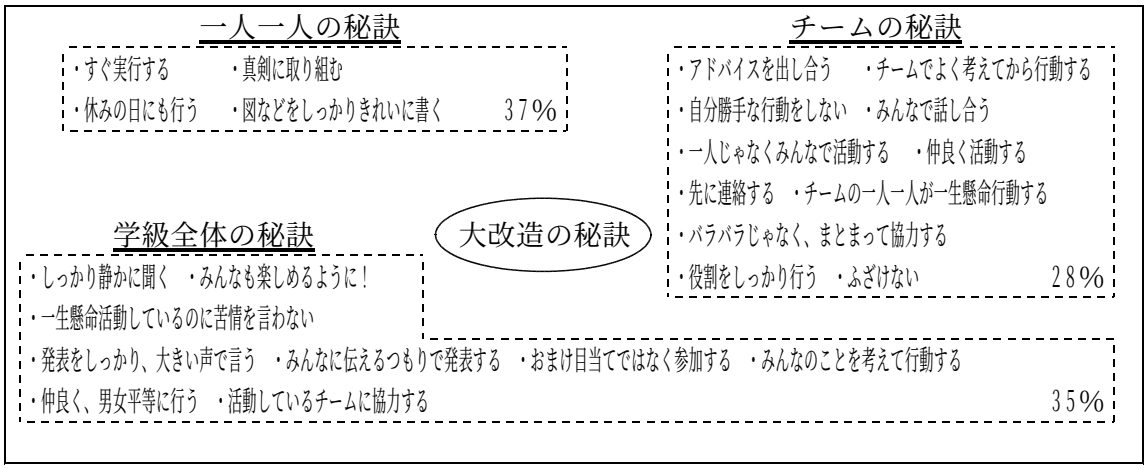
資料６は抽出児Ａ子の思いを表

資料６　抽出児Ａ子の取組開始１週間後の思い

・「ポスターを必ず一番にはるぞ」という誓いを立てた。　・顔が似ていない。自信がない。
・他のグループはじゃんじゃんやってるのに、みんなの前でやれなかったので、もっともっとみんなの前で絵を見せたい。　・でも雑には描きたくない。　・輪郭とか少しでも違うと気になって気になって仕方ない　・リーダーに全体の前での発言を任せすぎなので私もがんばらないといけない。そして授業の時も手を挙げるようにしないと・・・。　・チームでよさを探したがなかなか出てこない。改善点ならよく見つかった。

したものである。Ａ子は、「イラストシスターズ」という友達の似顔絵を描くチームに所属し、表１にある目標を持って活動に取組始めた。活動の初めに「誓い」を立てたが、思うように進まないいらだちが見て取れる。しかしそこであきらめず、真剣に取り組んでいきたいという思いが感じられる。

資料７　「大改造の秘訣」についての全体構造図（数字は百分率）



資料７は、４－２大改造計画の発表会が終わった後に、「大改造の秘訣」について「一番大切だと思うもの」を全員が発表し合い、「一人一人の秘訣」、「チームとしての秘訣」、「学級全体としての秘訣」として構造化した。資料７の意見を量の面からみると、一人一人の取組だけでなく、チーム（28%）や学級全体（35%）に対する意見が多くなってきたことが分かる。意見を質的な面からみると、取組のよさから出されたと考えられるものが２個で、その他は、資料５の「全体に協力を要すること」、「チーム内の注意点」が反映されているといえる。また、資料７の「一人一人の秘訣」を除いて、資料５と資料７の割合を比較すると次のようになる。資料５では「チーム関係＝61%」、「学級全体関係＝39%」と、チームに関係する方が割合が高かったが、資料７では「チーム関係＝44%」、「学級全体関係＝56%」と割合が逆転している。チーム単位で活動に取組、また学級全体の前で発表するため、相手のことを考えて行動していこうとする気持ちが芽生えてきたといえる。

資料８はＡ子の大改造の秘訣である。Ａ子はこの授業の際に、「大改造の秘訣」と聞かれ何を書いていのか分からなかったようだが、「秘訣はどんなことでもいい」という教師の助言と級友が発表していくのを聞いて、自分の思いを発表した。Ａ子は、上記の秘訣を当たり前のことだと思っていたようであったが、学級全体に対して目を向けることが大切であると認識できるようになってきたといえる。

資料８　Ａ子の大改造の秘訣

みんなのことを考えて行動すること

以上のことから、チームでまとまって活動し、その成果を全体の前で表現し、さらに「大改造する秘訣」について意見を出し合うことは、協力して活動していこうとする意欲を持つことにつながったと考えられる。

(3)　協力する価値に気づくことことができたか。（見通し３）

ア　実践の概要

「４－２大改造計画」における児童の感想から、各自のよさを集めて学級全体のポジショニング・マップを作成し、運動会後の児童の感想をもとに作成した学級全体のポジショニング・マップとを比較した。さらに、そこから協力する価値について意見を出し合う活動を行った。

イ　結果と考察

資料9　運動会後の学級全体のポジショニング･マップ

行　動

練習した　自分はよくできた、段々うまくなった　努力した　たくさん
去年よりがんばった　間違っていたから直した　汗をいっぱいかいた　46個

みんな（クラス）で練習　教えてあげた　みんなでかけ声　応援した　協力できた
いっぱい　みんなで直した　みんなで注意し合った　56個

自　分　　相　手

演技に気をつけた　一生懸命　やってよかった　努力すればすごい結果が出る　35個

みんなががんばってくれる
どの組よりうまくなりたい　6個

0個

気持ち

資料10　4－2大改造計画後の学級全体のポジショニング･マップ

行　動

自分の活動よくできた　家で練習した　はりきった　順調に進んだ
真剣に取り組めた　色をぬった　いろいろな工夫をした　17個

自分達のチームよくできた　みんなの発表もよくできた　拍手してくれた
チームで計画を決めた　男女共同で遊べるようになった　話を静かに聞いた　44個

自　分　　相　手

とても楽しかった　3学期もやりたい
3学期悪い所を直したい　無事に完成したので「やったあ」と思った　54個

他のチームもやってみたい
チームでならやる気が出る　アドバナイスカードうれしかった　92個

みんな一人ずつのよいところを探していきたい
真剣に取り組んだ方がいい　楽しくしてあげたい
4－2を大改造したい　13個

気持ち

資料９と資料10の「自分の気持ちの箇所」は、「自分だけの気持ち」を左側に、「相手に関係した自分の気持ち」を右側に分類した。また、相手側は「相手のための気持ち」と「相手のための行動」に分類したため、資料９の相手の気持ちの箇所は「０個」となった。

資料９と資料10の個数を比べ、特に増加した箇所は全体としてのよさ（143個→222個）、自分の気持ち（41個→146個）、相手のための気持ち（０個→13個）である。増加の要因は、資料11の児童の感想にあるように、チームを組んで活動してきたこと、発表会を設けたことでより真剣に取り組めたこと、相手のことを考えるようになってきたからなどが挙げられる。

資料11　学級全体のポジショニング･マップを比較しての主な感想（数字は個数）

・書いてある内容がいい（4）　・みんながんばった（3）　・友情が深まってきた（2）　・相手の気持ちが分かってきた（2）　・進歩したんだな（2）
・みんなでやったから増えた（1）　・経験や思いがあるから増えた（1）　・自分のが増えてうれしい（1）　・相手の気持ちが増えた（1）　・もっと書きたい（1）

資料12　協力するよさについての構造図

友情が深まる

休み時間にみんなで遊び仲良くなる
クラスが明るくなる　仲良くなかった子とも仲良くなれる

大きな力となる

１人でできないものができる　協力する力がつく　活動が楽しくなる　意見が出てもっとよくなる
1人で思いつかないものも思いつく　2，3人の力よりもっとよい発表になる　楽しんでもらえる

協力するよさとは・・・

自分が変わる

発表ができるようになる　自信が持てる　責任感を持ってできる　発表できるようになる　手を挙げられる　がんばれる　目標を持てる

資料12は資料９、資料10をもとに「協力するよさとは・・・」と題して、「協力する価値」について児童が意見を挙げたものである。大別して「友情が深まる」、「大きな力となる」、「自

分が変わる」というくくりでまとめた。

この授業についてＡ子は資料13のような感想を記述している。全体の前での発表は少ないＡ子だが、チームという小集団で活動を行うことで、夢中になって活動できたことが分かる。これから、Ａ子は「協力することで大きな力となり、自分も変わる」ことに気づいたといえる。また発表会後の感想に、発表会前日にチーム内で分担した級友の似顔絵を夜遅くまで描いたことや他チームの活動のよさについても記述している。このことからも見通しの２で本人が挙げた大改造の秘訣についても実行していることが分かる。

以上のことから、活動後のポジショニング・マップの作成と記述内容の変化を比較することは、集団で取り組むことのよさを実感でき、協力する価値に気づくことにつながったといえる。

資料13　協力する価値についてのＡ子の感想

（私は）自分が実際にやったことから考えて、「みんなでやると発表もはずかしくない」と書きました。私達の前のチームが終わっ時、少しドキドキしていました。そして、自分たちの番になって前に出た時、「アレ？いつもとちがう、いつもならもっとはずかしいはず」と思いました。（中略）前に出てクイズとかする時は「はずかしい」なんて言葉をわすれてて、むちゅうでやってた気がします。まだ一人じゃはずかしいけど、みんなでやったら全然はずかしくなくて楽しかったです。１学期より進歩したのかなあ？運動会のより多くなったのは、みんな進歩したということでしょうか？私も進歩しているとうれしいですね。

注：（　）内と下線部は教師によるもの

Ⅴ　研究のまとめと今後の課題

1　研究のまとめ

○　児童は、相手と自分のポジショニング・マップの比較から「自分がしっかりとした気持ちを持って行動すること」、「相手のことを思って行動すること」という、具体的な協力する視点に目を向けることができるようになった。

○　児童は、「４－２大改造計画」への取組と「大改造の秘訣」から大切な価値を考えることにより、学級全体の協力する姿勢の高まりを実感し、協力して活動していこうとする意欲を持つことができた。

○　以前は見られなかった「相手に関係する気持ち」や「相手のための気持ち」が学級全体のポジショニング・マップに表れ、その後の構造化により「自分が変わること」が「大きな力」となり、「友情の深まり」につながることを理解し、協力する価値に気づくことができた。

以上のことから、「４－２大改造計画」を設定して、自分たちの体験を踏まえて学級の成果としてのよさを実感することを通して、協力することの大切さを学び合う学級に近づけたと考える。

2　今後の課題

３学期も「大改造の秘訣」を意識させて、引き続き「４－２大改造計画」を行いたい。具体的には、一人一人の秘訣から「真剣に取り組むこと」、チームの秘訣から「活動する前に先に連絡すること」「役割をしっかり行うこと」、学級全体の秘訣から「しっかり静かに聞くこと」である。「秘訣に王道はなく、当たり前のことを当たり前に行うこと」を学び合えるよう日々の活動と結び付けていきたい。また、「４－２大改造計画」では、発表や話し合い等に予想以上に時間がかかったので、発表の手順や段取り等を工夫し、効率的に取り組めるように指導していきたい。さらに、協力することの大切さを日常的に学び合えるように、集団で活動し合う場面を意図的に多く設けるなどの１年間を見通した学級経営を考えていく必要がある。